

## イエスのことば 第22回

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ 11:28)

## □イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言(紀元27年の春、過越の祭り)を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架(紀元30年の春、過越の祭り)、復活、昇天

## □文脈の確認

1. 「承」の部において、これまでに12の権威を見てきた。
2. 前々回は、ローマ軍団の将校がイエスの権威を認めた出来事。ポイントは次の3つ。
  - (1) **背景**：これまでイエスが12の権威を現わし、大勢の群衆がイエスに従うようになった。しかし、ユダヤ人の指導者層は、イエスを殺そうと図っていた。イエスは弟子たちの中から十二使徒を選び、次の段階に備えている。
  - (2) **異邦人がイエスの権威を認めた**：百人隊長はローマ軍団の将校である。ただし、ローマ人とは限らない。この時期、ユダヤに駐留していた軍団は、ギリシア人などで構成されていた可能性が高い。しかし、いずれにせよ、異邦人である。その異邦人が、イエスの権威を認めた。
  - (3) **異邦人の救いの予告**：イエスは百人隊長の信仰を高く評価すると共に、将来、世界中の異邦人がアブラハム契約の祝福に与かることを予告した。
3. 前回から、いよいよ「承」の部の結末、メシア拒否に入った。拒否の前触れは、先駆者ヨハネから出た。
4. 今回は、ガリラヤ地方の町々に対して、その不信仰をイエスが責めた出来事である。

## □本日のアウトライン

1. ガリラヤ地方の町々の不信仰を責める(マタイ 11:20~24)
2. 天の父への祈り(マタイ 11:25~27)
3. イエスを信じて弟子となるようにとの勧め(マタイ 11:28~30)

## □本日の内容

1. ガリラヤ地方の町々の不信仰を責める（マタイ 11：20～24）
  - (1) 責めた理由（11：20）
  - (2) コラジン、ベツサイダに対して（11：21～22）
    - ツロとシドンは、異邦人の町
  - (3) カペナウムに対して（11：23～24）
    - ソドムは、創世記 19 章で主に滅ぼされた町
  - (4) この箇所では明らかにされたこと：不信者の裁きに軽重があること
    - ① ヨハネ 5：29 「悪を行った者はよみがえってさばきを受ける」
    - ② マタイ 10：28 「たましいもからだもゲヘナで滅ぼす」
    - ③ マタイ 25：41 「悪魔とその使いのために用意された永遠の火」
    - ④ マタイ 25：30 「外の暗闇」、25：46 「永遠の刑罰」、黙 20：10～15 「火の池」
  
2. 天の父への祈り（マタイ 11：25～27）
  - (1) 不信仰の理由は二つ、一方で神のみこころ（神が選んでおられないこと）、他方で **人の罪**
  - (2) 知恵ある者や賢い者は、神を認めず、神の前にへりくだらない。知恵あることや賢いことが罪ではなく、**神を認めず、神の前にへりくだらないことが罪**である。
  - (3) 幼子たちとは、自分を知恵ある者とか賢い者とは思わず、貧しく何も持たない者であると自覚している人である。神はそのような人に聖霊による導きの光を照らしてくださる。
  
3. イエスを信じて弟子となるようにとの勧め（マタイ 11：28～30）
  - (1) メシアが招いておられる。誰を招いておられるのか。「すべて疲れた人、重荷を負っている人」である。その重荷とは、何か。ユダヤ教パリサイ派の口伝律法の重荷である。
  - (2) メシアは、「わたしのくびきを負って、わたしから学びなさい」と勧める。くびきを負うとは、弟子となるということ。そうすれば、たましいに安らぎが得られる。なぜなら、口伝律法の重荷に比べたら、イエスのくびきは負いやすく、荷は軽いからである。
  - (3) ここでの勧めの最重要点は、28 節「**わたしのもとに来なさい**」である。そしてイエスの弟子となり、イエスから学ぶときに、**イエスから与えられるのは、何か。安らぎ**である。
    - ① わたしが、あなたがたを休ませてあげます。（28 節）
    - ② たましいに安らぎを得ます（29 節）